

【上川南部森林管理署】 木造建築・我が署紹介！



新築当時の現庁舎

上川南部森林管理署は、南富良野町に所在しています。その管轄区域は、北海道のほぼ中央に位置しており、水系は日本海に通じる空知川と太平洋に流れる鶴川に分かれ、それぞれの上流域にあたります。地勢的には東部は大雪山系から日

高山脈、西部は石狩山地・夕張山地に挟まれ、北側は富良野盆地からなっています。管轄する国有林は、約11.5千haで富良野市、上富良野町、南富良野町、占冠村に所在します。

管内にある十勝岳・芦別岳・夕張岳などの優れた自然に恵まれている地域は、大雪山国立公園や富良野芦別道立自然公園などに指定されるなど、秀麗な山岳と森閑とした湖沼を特徴とする北国らしい景観を持つ地域です。

【管理署の変遷】

戦前、当署管内の国有林は、御料林と北海道庁所管の国有林に分かれていましたが、昭和22年の林政統一時に再編され幾寅、金山、富良野の3つの営林署として発足しました。

旧庁舎は、昭和23年に建

築されて以来増改築をしながら使用してきましたが、老朽化が進んだこと、平成11年の組織の抜本的改革により三営林署が上川南部森林管理署として統合されたことから、地元の新たな顔となるべく、現在の庁舎が建築されました。

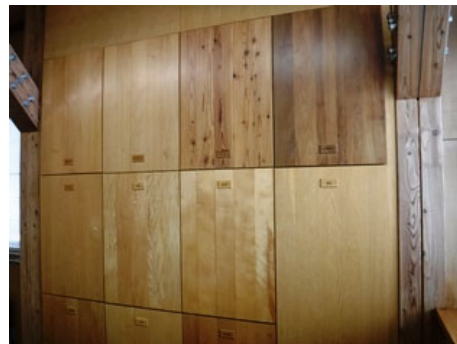
【現庁舎の概要】

現在の庁舎は、平成14年3月に竣工し、20年が経過、木造2階建てで延床面積は592㎡。事務室のスパンを確保し、なおかつ、フラットルーフとするため、木造の在来工法によらず、カラマツ材による大断面構造用集成材と軽量鉄骨等を適宜使用したラーメン構造となっています。

一階には森林事務所・会議室・トイレ等を配置。これは地域の森林ボランティア活動等で休日でも利用してもらえるように会議室・トイレ・玄関ロビーはバリアフリー化されています。また、会議室の暖房はペレットストーブで通常の暖房にはない温もりと、薪ストーブにはない利便性を兼ね備えた暖房装備として木材

利用のPRに一役買っています。

二階には署長室及び執務室を配置しています。執務室はスペースを確保しつつレイアウトの変更を容易とするため無柱のフラットスペースとなっています。



代表樹種を使った収納棚

新築にあたっては、上川南部流域の森林管理の中心基地として、地域住民から親しまれるような木の良さをアピールできる建物をコンセプトとして、トドマツ・カラマツ・エゾマツ等の地域の特色ある木材を使用し、建物の内部、外部とも可能な限り木材を使用、他の建材と調和がとれるよう設計されています。

また、寒冷地対策として、

高密度断熱材と木製サッシ窓が使用され、寒さと結露対策を行い快適な室内温度が保たれています。

【歴史を伝える年輪板】

現在、玄関ロビーに飾られている「年輪板」は、旧幾寅営林署時代に伐採されたエゾマツで伐採時で樹齢265年、現在ではこのような大木を伐採することは無くなりましたが、往時の活況を伝える貴重な林業遺産の一つとなっています。



庁舎内玄関の「年輪板」

最後に、これからも地元可愛され地域の林業の活性化に貢献できる森林管理署として、理解を得られるよう取り組んでいきます。